



第11回 李秉昌博士記念公開講座

「元と高麗」

日時

2018年3月17日(土)

12時30分(受付開始)～17時

会場

大阪弁護士会館 2階会議室

(大阪市北区西天満1-12-5)

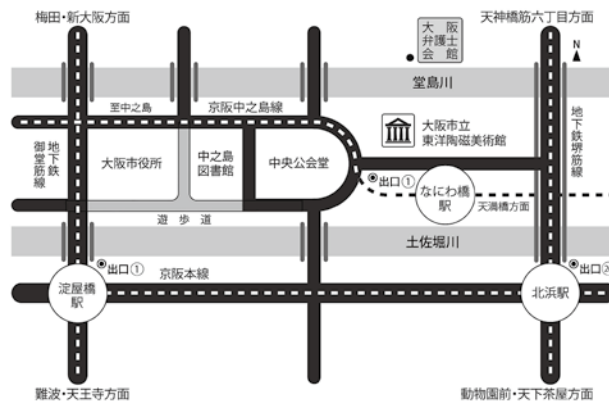


青磁象嵌飛天平瓶
高麗時代・14世紀

講座内容

高麗青磁は10世紀に中国・越窯青磁の技術をもとに生まれたと言われ、その後も中国陶磁から影響を受け続けてきました。やがて中国ではモンゴルが南宋を滅ぼして1271年に元を建国しますが、それに先立ち1231～59年の長期にわたって高麗に侵攻しました。こうして元は、西はチベットから東は高麗までを支配下に置く一大帝国を築き上げますが、さらにその通商圏は中央アジアをも超えて、ヨーロッパの一部にも及びました。そのなかに高麗も組み込まれたのです。こうして、元時代の窯業の中心をなした景德鎮窯で焼かれた青花磁器が広く流通し、高麗青磁にも元時代の磁器の影響が見られると言われています。

今回、元と高麗をテーマに、高麗の置かれた歴史的状況と、またそのなかで新たに展開した高麗青磁を考えるため、日本、韓国、中国から第一線の研究者をお招きし、最新の研究成果をご紹介します。なお、本講座は、在日韓国人である故李秉昌(イ・ビョンチャン)博士にご寄贈いただいた韓国陶磁研究基金によって開催するものです。



京阪・中之島線「なにわ橋」駅より徒歩約5分、
地下鉄御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」「北浜」駅より徒歩約7分、
JR東西線「北新地」駅より徒歩約15分

スケジュール

- 12:30～ 受付開始
※準備の都合により、12時30分以前には会場へお入り頂けません
- 12:55 開会
- 13:00～13:40 「モンゴル帝国時代の都市遺跡と中国陶磁器—草原世界の陶磁の道の可能性—」
弓場紀知氏
石洞美術館・館長、兵庫陶芸美術館・副館長
- 13:40～13:45 休憩
- 13:45～14:50 「モンゴルの高麗侵攻と三別抄—三別抄の考古学—」
尹龍燦氏
韓国 国立公州大学校・名誉教授
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～16:05 「近年の考古出土資料から見た元青花磁器の生産とそれに関する諸問題」
江建新氏
中国 景德鎮陶瓷考古研究所・所長、景德鎮御窯博物館・館長
- 16:05～16:10 休憩
- 16:10～16:35 「元と高麗青磁」
鄭銀珍
大阪市立東洋陶磁美術館・学芸員
- 16:35～16:50 総括・質疑応答
- 17:00 閉会

定員：150名(先着順)

※聴講無料、2階会議室に直接お越し下さい

問合せ：大阪市立東洋陶磁美術館・学芸課

電話：06-6223-0055

主催：大阪市立東洋陶磁美術館、公益財団法人大阪市博物館協会

後援：駐大阪大韓民国総領事館 韓国文化院、東洋陶磁学会